

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	96	実施計画番号	46
事務事業名	学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高めるための取組	事業開始年度	平成17年度
担当課名	指導課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	児童生徒が知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む態度を養い、個性の伸長や生きる力を育成するためには、体験的な学習や知識・技能を活用した問題解決的な学習を充実する必要があります。		
事務事業の目的	体験を取り入れた多様な学習機会を通じて、児童生徒の個性の伸長と生きる力の育成を図る。		
実施状況	計画訪問や要請訪問、各種研修会等において、体験的な学習や問題解決的な学習の重要性を強調するとともに、各校の具体的な取組を支援した。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	2	2	2
	人件費(千円)	72	72	72
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	0	0	0
	活動日数(日)	0	0	0
	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	23年度実績	24年度実績	25年度計画
うち一般財源	0	0	0
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	0	0	0

【指標】

活動指標	活動指標名①	小学校における体験活動の実施校数			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		校	20	20	17
	活動指標名②	中学校における体験活動の実施校数			
成果指標	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		校	20	20	17
		校	9	9	9
	達成度(%)		100%	100%	
成果指標	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		校	9	9	9
		校	9	9	9
	達成度(%)		100%	100%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	96
計画No	46

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 実感的な理解、学ぶ楽しさや成就感の体得には、体験的な学習や知識・技能を活用した問題解決的な学習は欠かせない。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 すべての小・中学校で体験的な学習に取り組んでいる。今後も、ねらいを明確にした体験活動を推進していきたい。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 計画訪問での指導助言を中心に、効率的に推進できている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 すべての小・中学校で取り組んでおり、偏りはないと考える。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 すべての小・中学校で体験的な学習に取り組んでおり、その必要性や有効性については十分に理解されている。今後も、より充実した体験学習になるよう支援を継続していきたい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 各体験活動のねらいを一層明確にして取り組むよう、各小・中学校への指導助言を充実させる。